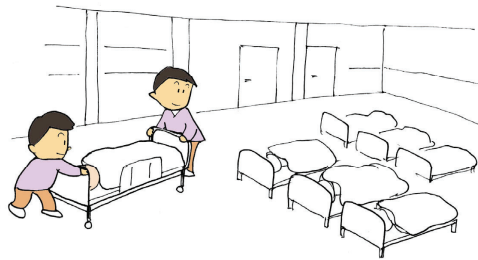
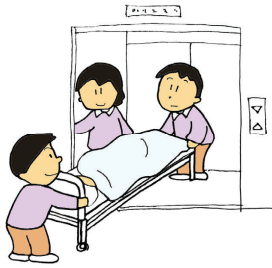


第3部

避難訓練の企画・実施方法

避難計画をもとに訓練して計画の検証・見直しを



避難訓練を行う主な目的

- 施設利用者と職員いのちを守る。
- 作成した避難計画を検証する。
→ 必要に応じて見直しをする。
- 避難時の行動を理解する。
- 施設職員の防災意識を高める。

避難訓練の実施は『義務』です！

避難確保計画の作成が義務づけられている施設では、**避難訓練の実施も義務**づけられています。

また、避難訓練を実施した場合、**訓練終了後の概ね1カ月以内を目安に訓練結果を市町に報告する必要がある**。

- 避難訓練は、**全職員が最低年1回**は実施しましょう。
- できれば、**大雨・台風シーズン前**に避難計画を確認し、訓練を実施するといいでしょう。

3

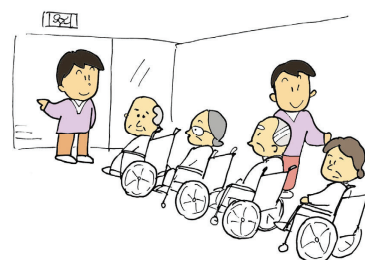
避難訓練の企画方法

■ 訓練の種類

● 実働訓練

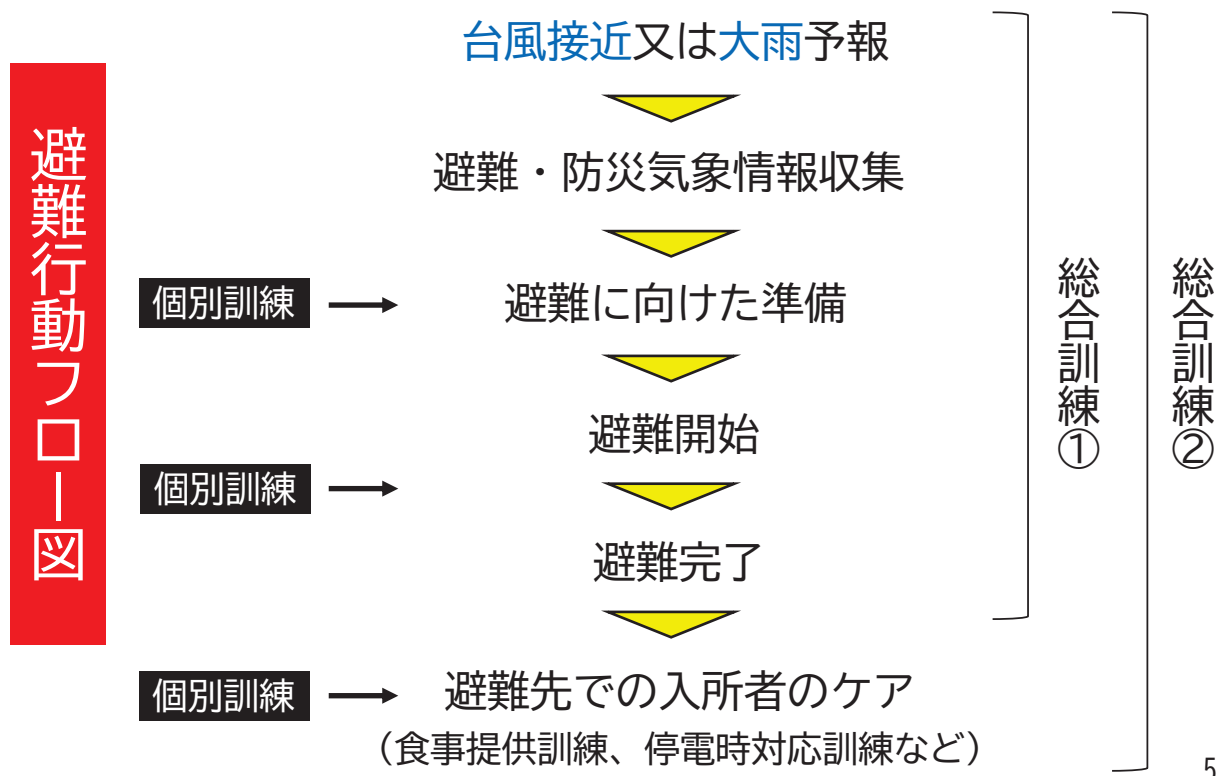
- 総合訓練
- 個別訓練
- 防災資機材等の取扱訓練

● 図上訓練



4

避難訓練の企画方法

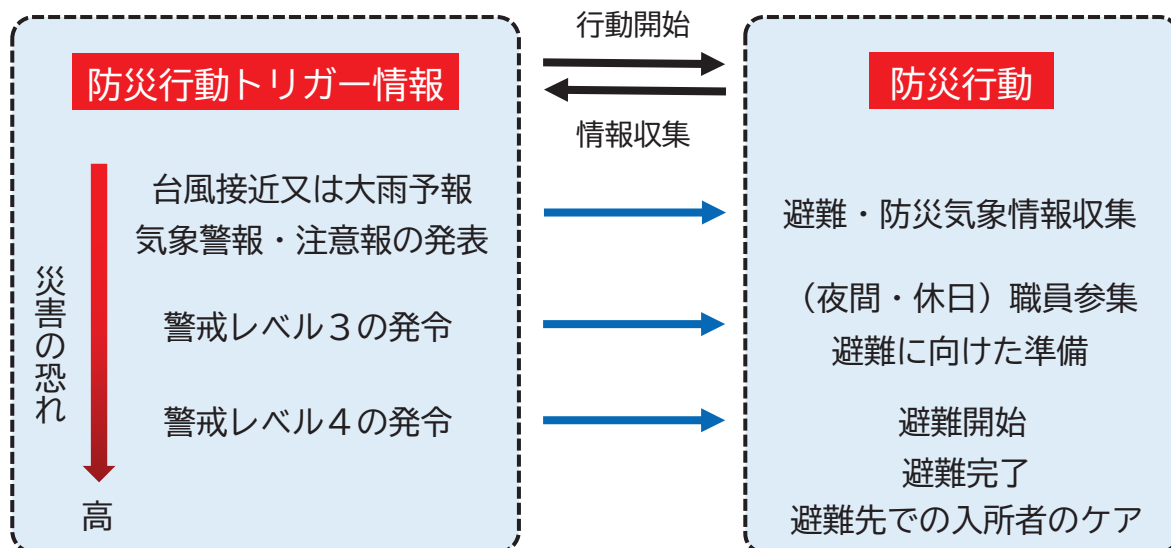


避難訓練の企画方法

総合訓練は、避難タイムラインに沿って行うといいでしょう

水害・土砂災害からの避難行動（例）

雨が降り始め、徐々に災害の危険性が高まっていきます



避難訓練の企画方法

避難訓練プログラム（例）

立退き避難をする場合

- 訓練の事前説明
- 情報収集訓練
- 職員参集訓練
- 避難の準備
- 避難先に避難開始
- 避難先に避難完了
- 食事提供訓練
- 施設に戻る
- 訓練の振り返り

屋内安全確保をする場合

- 訓練の事前説明
- 情報収集訓練
- 職員参集訓練
- 避難の準備
- 水平避難又は垂直避難
- 避難スペースに避難完了
- 居室に戻る
- 食事提供訓練
- 訓練の振り返り

7

避難訓練の企画方法

避難訓練のポイント

- 施設職員が避難の流れを理解し、適切な避難行動がとれるようにすることです。移動が困難な利用者を無理に参加させる必要はありません。その場合は、職員が利用者役として訓練に参加と良いでしょう。
- 施設職員が利用者役として参加することで、利用者の視点での避難の問題点を考えることができます。
- 訓練はうまくやることでが目的ではなく、問題点や課題などを見つけるための訓練です。難しく考えずに、とにかく動いてみるのが大切です。

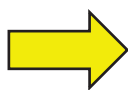
8

避難訓練の実施方法

① 避難・防災気象情報の収集

実働訓練の実施例

状況付与
前線が停滞する影響で
記録的な大雨の恐れ



対策会議の開催（今後の対応を協議）



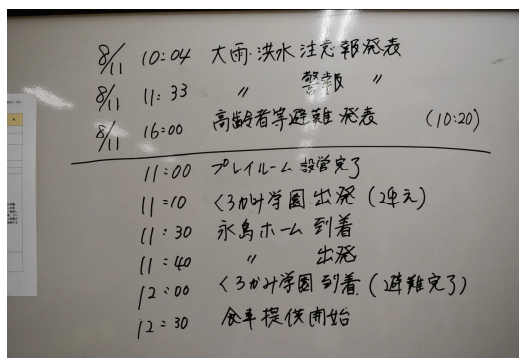
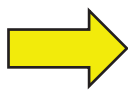
オンライン会議

避難訓練の実施方法

① 避難・防災気象情報の収集

××市に大雨警報
・洪水警報発表

状況付与



ホワイトボードに記入（情報共有）



避難タイムラインで防災行動を確認

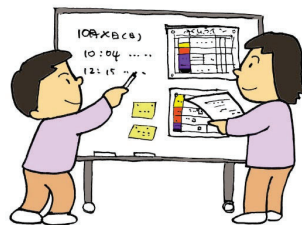
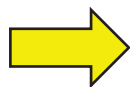
避難訓練の実施方法

②（夜間・休日の想定の場合）職員参集

※参集は仮想で、訓練時は施設にいて参集してきたものとして訓練を行うことも可。

××市〇〇地区に
高齢者等避難
(警戒レベル3) 発令

状況付与



職員への参集連絡

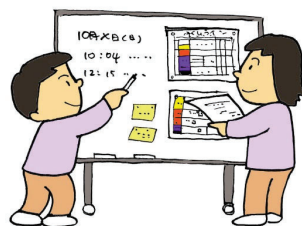
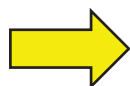
13

避難訓練の実施方法

③ 対策会議の開催（避難準備と避難開始の決定）

××川
氾濫警戒情報発表

状況付与

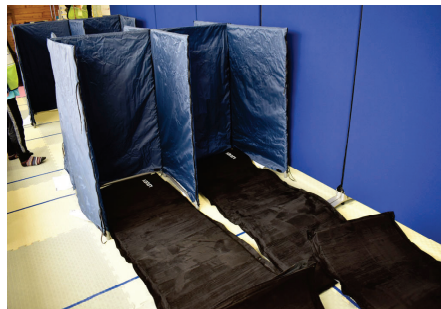


対策会議の開催（避難に向けた対応協議）

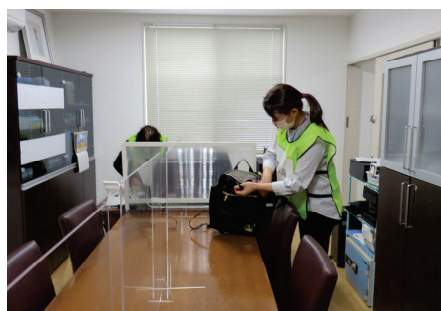
14

避難訓練の実施方法

④ 避難先への職員派遣・受入準備



⑤ 避難先への物資搬送準備



15

避難訓練の実施方法

⑥ 避難先への避難開始



16

避難訓練の実施方法

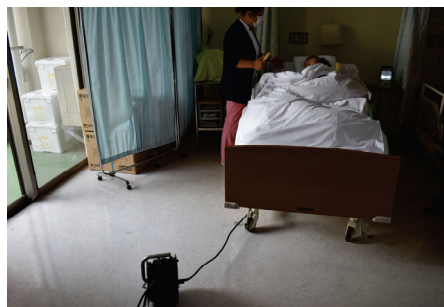
⑦ 食事提供訓練（非常食の試食）



17

避難訓練の実施方法

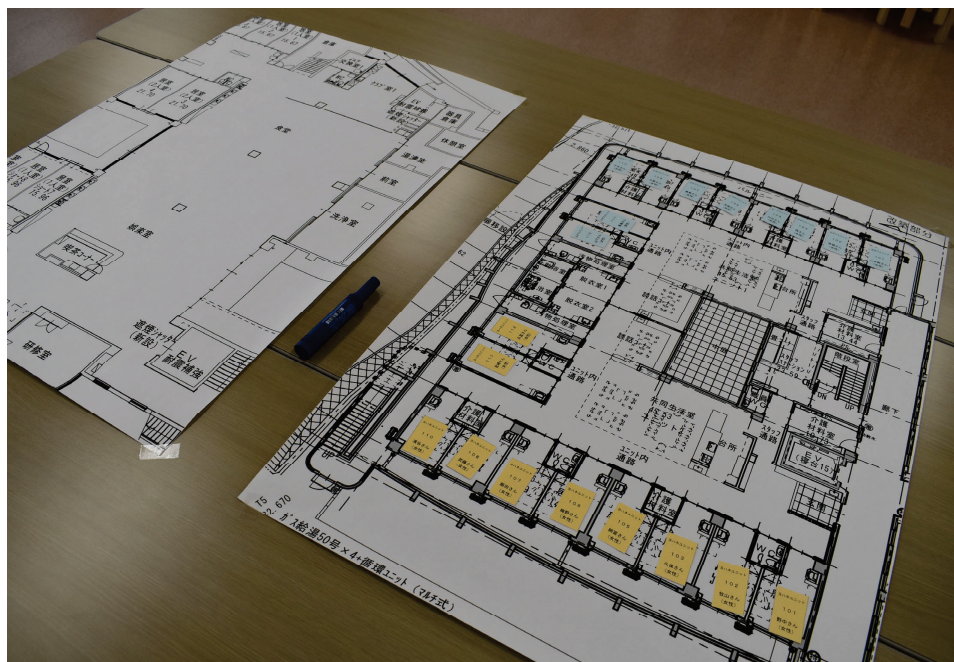
⑧ 停電時対応訓練



18

避難訓練の実施方法

図上訓練の実施例



19

避難訓練の実施方法

図上訓練イメージ

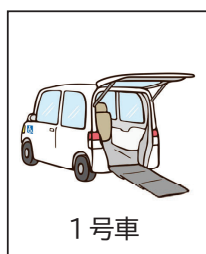
入所者カード



職員カード



避難車両カード



20

図上訓練イメージ①参集職員






〇〇市××地区に河川氾濫の危険が高まったとして
避難指示（警戒レベル4）発令

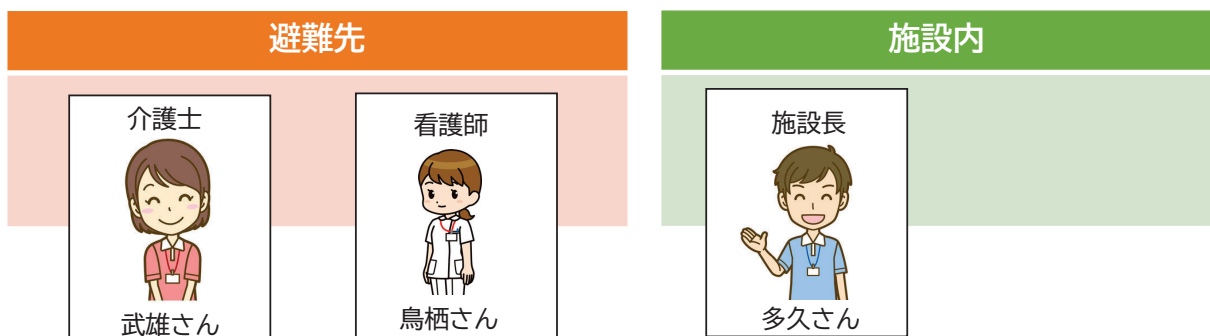
立退き避難（施設外避難）開始を指示

21

図上訓練イメージ②避難行動

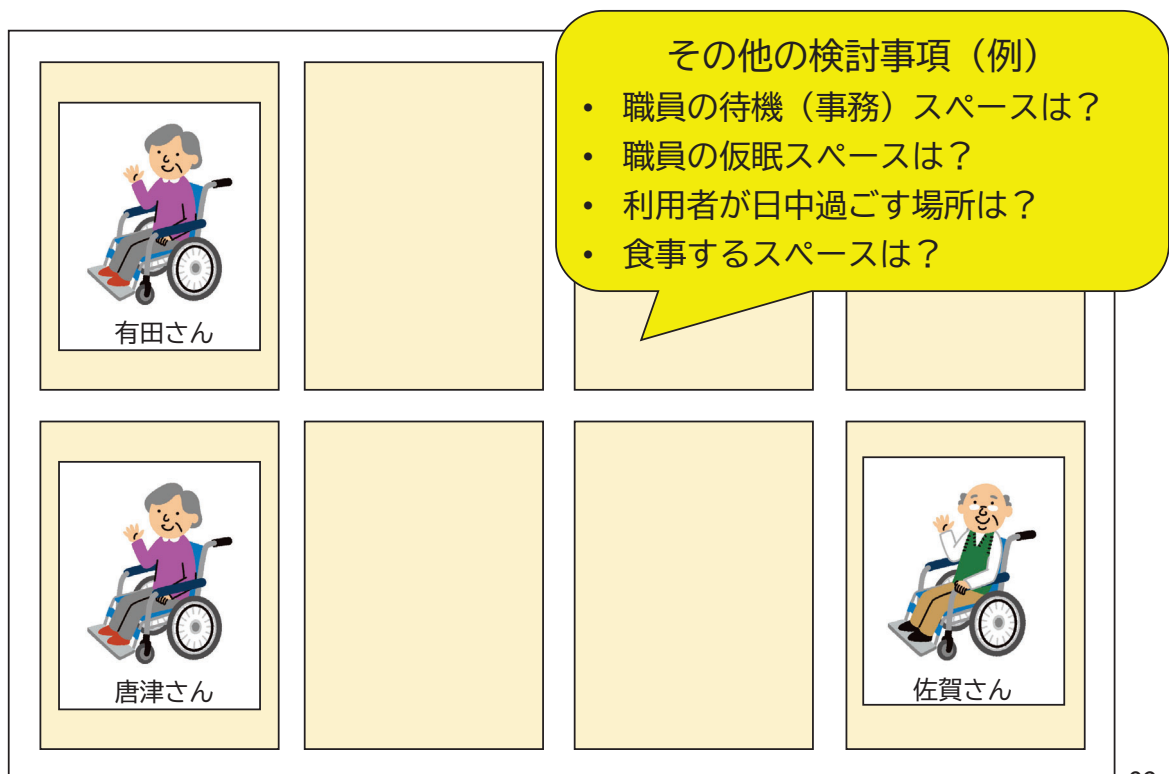
移動車両	運転手 同乗車	1回目	2回目	3回目
 1号車	事務  小城さん	 唐津さん	 佐賀さん	

避難に要する時間
1往復：約20分



22

図上訓練イメージ③ 避難先滞在スペースの配置



23

避難訓練の主な検証ポイント（例）

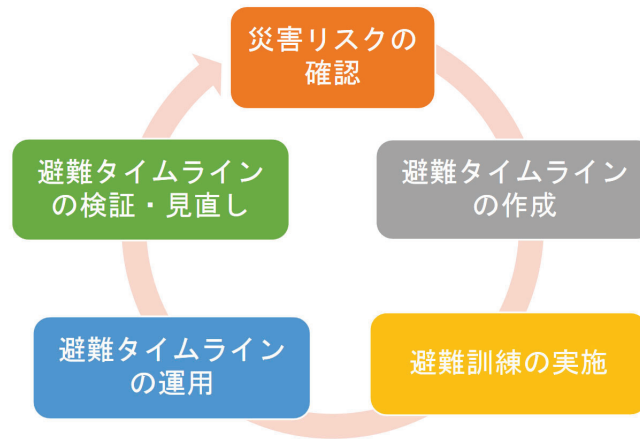
検証項目	検証のポイント
避難開始	避難開始のタイミングは適切か？
職員参集	職員が参集するタイミングは適切か？
	避難に必要な人員を確保できているか？ （参集する職員の数は足りているか？）
移動手段	避難に必要な車両など、移動手段は確保できているか？
雨天対策	雨天時の対策は考えているか？（車の乗降場所、動線など）
役割分担	避難時の職員の役割分担は適切か？
避難グッズ	入所者の常用薬や眼鏡、歯磨きセット、着替えなどの生活必需品を持参しているか？
避難スペース	数日間滞在する場所として適した避難スペースか？
	適切な広さは確保できているか？（1人最低4㎡以上）
	就寝用のベッドやマットなどはあるか？
	プライバシーを確保できるか？（排泄時など）
	冷暖房設備はあるか？
	食事スペースなど生活に必要なスペースは確保できるか？
	職員の業務スペースや休息場所は確保できるか？

24

最後に

避難計画に完成はありません！

作成した時点では最適な避難計画かもしれませんが…
常によりよい避難方法を考え、計画の見直しを



風水害による犠牲者ゼロの実現に向けて“継続的”に取り組んでいきましょう 25